

令和7年度

浦安市の子どもたちの
確かな学力の向上を目指して

全国学力・学習状況調査結果概要

【調査実施日】令和7年4月17日等

○本資料の目的

- ・「全国学力・学習状況調査」の結果を踏まえた、授業改善の推進。
- ・調査結果を調査対象学年の結果として扱うのではなく、学校全体の指導改善に活用し、組織的・継続的な取り組みに役立てる。

○調査内容

- ・教科に関する調査 **小学校** 国語・算数・理科 **中学校** 国語・数学・理科 (CBT方式※)
- ※CBT方式(Computer-based Testing)コンピュータ使用型調査
- ・生活習慣や学校環境に関する調査・・・児童生徒質問調査、学校質問調査

(1) 各教科の結果 [平均正答率]

小学校6年生			
	浦安市	千葉県	全国
国語	72%	66%	66.8%
算数	66%	58%	58.0%
理科	62%	57%	57.1%

中学校3年生			
	浦安市	千葉県	全国
国語	58%	54%	54.3%
算数	55%	47%	48.3%
理科※	51.4	49.6	50.3

- ・千葉県・全国ともに公立学校の平均正答率(%)です。
- ・文部科学省の発表に基づき、全国平均正答率は小数第1位まで、県平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。
- ※中学校理科については、IRT方式にて集計。
- IRT(Item Response Theory): 項目反応理論。テストの難しさや受験者の本当の学力を、データから正確に測る統計的な考え方です。約500を平均値とした得点で表され、スコアが高いほど全国平均より学力が高いことを意味します。

(2) 児童生徒質問調査より

Q.授業※では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。※小学校は1～5年生、中学校は1・2年生の間

この質問に対して…		小学校6年生	中学校3年生
「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の平均正答率	国語	74.9%	60.8%
	算数/数学	70.1%	59.7%
	理科	65.4%	53.5%
「どちらかといえば当てはまらない」または「当てはまらない」と答えた児童生徒の平均正答率	国語	63.0%	50.0%
	算数/数学	53.0%	42.7%
	理科	50.0%	46.9%

上記のように「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめること」と、「各教科の正答率」には関連があります。

自分の考えをまとめるためには、身に付けた知識を理解し、活用を進めることにより学習内容の整理を促していくことが大切です。こうした活動を繰り返すことが、学力向上につながります。

小学校・国語

<下記問題の平均正答率>
浦安市 57.1% 全国 56.3%

〔課題のあった設問〕 小学校・・・**3** 三(2)
目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題です。

【正答例】
言葉は年月とともに変化することになりました。なぜなら、「新しい」という言葉が、奈良時代には「あらたし」と言われていたように、時代とともに言葉の形が変わることがあるからです。

〈条件〉
○言葉の変化についてなっとくしたことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書くこと。
○なっとくした理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています。次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(一)と(二)の問いに答えましょう。
(2) 木村さんは、【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましよう。

【この問題の理解を促すための手立て】

- ・必要な情報は目的に応じて変わるため、読む目的（何を読み取るのか）を明確にして読ませる。
- ・文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりしながら必要な情報を見付けさせる。

中学校・国語

<下記問題の平均正答率>
浦安市 30.8% 全国 31.0%

〔課題のあった設問〕 中学校・・・**1** (四)
自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題です。
平均正答率は、県の平均は上回っていますが、全国の平均を下回っています。

【問題の概要】
【ちらし】に、小学生の感想をもとに今年の美術展で工夫したことを書き加える。
条件1 今年の美術展の【工夫】と、【工夫】と結びつく小学生の感想の一部を選択する。
条件2 1で選んだ【工夫】と【感想の一部】の関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を用いて書く。
【正答例】
昨年の来場者から、どうやって作品を作ったのか知りたくなつたという感想をもらいました。そこで、今年は中学生が作品について説明します。気になる作品があったら、ぜひ中学生に質問してください。
【誤答例】
① 昨年は、おみやげのペン立てを私も作ってみたいという感想をもらいました。しかし、今年は、自分でペン立てを作るコーナーがあります。
② 今年の美術展では、中学生が作品について説明します。昨年参加した小学生の感想に、いろいろな作品が展示されていて楽しかったという声がありました。

【この問題の理解を促すための手立て】

- ・誤答例を活用し、条件のどの部分を満たしていないのかを考えさせ、条件に合うように書き直しをさせる。
- ・【工夫】【感想の一部】【接続語・指示語】に線を引くなどして着眼する点を明確にする。
- ・書き直した文章をペアやグループで読み合い、推敲する。

今後の授業改善にむけて

複数の資料を結び付けたり、文章と図表などを結び付けたりしながら必要な情報を読み取らせましょう。

・ 複数の資料を結び付けて読むために、ただ文章を読むだけでなく、文章と図表やグラフを線で結んだり、丸や四角で囲んだりしながら読ませることで必要な情報を整理することができ、理解が深まります。
・ 自分で資料を読み取った後、他者との対話を中心とした協働的な学習場面を設定し、お互いに共通することや、異なることなど新たな気づきを促しましょう。
・ 他者との対話の際には、タブレットの活用が効果的です。それぞれがまとめたメモを一つの画面で共有することで、対比させながら読み取らせましょう。

具体的な改善方法

自分の意見とその根拠が適切に結びついているかという視点をもって、文章を構成したり見直したりしましょう。

・ 他教科等の学習や学校の教育活動全体、行事等との関連を図り、提案や企画など、相手や目的を明確にして自分の考えを書く活動を積極的に取り入れましょう。
・ 自分の考えとそれを支える根拠が適切に結びつくようにするために、構成メモや接続語・指示語カード等を活用し、文章を構成する活動を行いましょう。
・ 読み手に納得してもらうためには、自分の書いた文章を別の視点から見直すことが大切です。一人一台端末を活用するなどして、書いた文章を読み合い、良い点や改善点を伝え合う活動を行いましょう。

具体的な改善方法

小学校・算数

<下記問題の平均正答率>
浦安市 32.5% 全国 23.0%

〔課題のあった設問〕⇒ ③ (2)
県や全国は上回っているものの、正答率が低く、無回答率が高かった問題です。
③ (4) の異分母の分数のたし算の正答率は8割を超えていることから、計算はできる反面、仕組みの理解が伴っていないという課題が見られます。

【問題の概要】

$2/5 + 1/5$ は、もとにする数を15にすると、整数のたし算を使って計算することができます。
 $3/4 + 2/3$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。
もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $3/4$ はその数の何個分、 $2/3$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

【正答】 次の①、②、③のすべてを書いている。

- ① $3/4$ と $2/3$ に共通する単位分数が、 $1/12$ であることを表す数や言葉
- ② $3/4$ が、共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉
- ③ $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉

【誤答例】

- ・①のみを書いているもの…5.7%
- ・通分について書いているもの…25.3%
- ・無回答…12.1%

【この問題の理解を促すための手立て】

- ・問題文の意味と、問われていることは何か（もとにする数（単位分数）と「その数の何個分か」の両方を解答する必要があること）を確認する。
- ・分数を、単位分数の幾つ分として捉えることで、整数の加法に帰着できる仕組みを理解できるように、図を用いて説明する活動を行う。
- ・加数と被加数の単位分数に着目して、通分について考察する活動を行う。（計算の仕方ではなく、その計算方法になる根拠を示す。）

中学校・数学

<下記問題の平均正答率>
浦安市 34.1% 全国 31.8%

〔課題のあった設問〕⇒ ①
正答率は、全国や県を上回っているものの、約7割の生徒が正解できていませんでした。
今年度の傾向として、数学用語の意味の理解に課題が見られる設問が幾つかありました。（設問④の「増加量」、設問⑤の「相対度数」など）

【問題】

下の1から9までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄をすべて塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

【正答】 2、3、5、7と回答

【誤答例】

- ① 3、5、7 … 3.3%
- ② 2、3、5、7、9 … 3.5%
- ③ 1、2、3、5、7 … 19.2%
- ④ 1、3、5、7 … 11.9%
- ⑤ 1、3、5、7、9 … 6.1%
- ⑥ 上記3～5以外で1を含んで回答しているもの… 12.0%

③～⑥の反応率の合計は 49.2%であり、「1が素数に含まれる」と誤って捉えている生徒が多いと考えられる。

【この問題の理解を促すための手立て】

- ・整数の性質について理解を深めるために、整数を様々な視点で分類する（自然数、素数、偶数・奇数など）活動を行い、体験的に理解を促す。
- ・素数が、「2以上の自然数で、正の約数が1とその数自身のみであるもの」であることを、自分の言葉で説明させる。
- ・誤答例を活用し、なぜ誤答であるのかを説明させることで、確実な意味理解を促す。

今後の授業改善にむけて

計算の方法を指導する際に、その解になる根拠を図や言葉で説明する活動を行いましょ

スパイラル学習を意識し、数学用語が長期記憶として定着するように指導しましょ

具体的な改善方法

- ・小数や分数の計算について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位を図を用いて見いだすことで、整数の計算に帰着して考察できるようにする活動を行いましょ
- ・図や言葉を用いて自分の考えを説明する活動を行いましょ。ペアやグループワーク、全体共有を行うことで、確実な理解を促しましょ。一人一台端末の活用も効果的です。

具体的な改善方法

- ・普段から数学用語を生徒に意識的・意図的に使わせたり確認させたりするような発問の工夫をしましょ。一度学習した内容であっても振り返ることが大切です。
- ・定義を暗記させるだけではなく、問題解決型学習を通して、体験的な理解を促しましょ。
- ・「浦安市小中連携・一貫教育カリキュラムの指針」を参考に、スパイラル学習を意識して、単元の系統性や学習のつながり意識した指導計画を立てましょ。

小学校・理科

<下記問題の平均正答率>
浦安市 26.4% 全国 29.9%

〔課題のあった設問〕⇒ ③ (4)

小学校理科で、全国平均よりも正答率が低かった問題です。発芽の条件について、実験やその結果から新たな問題を見だし、適切に表現することができるかをはかります。

中学校・理科

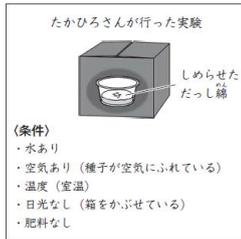
<下記問題の平均正答率>
浦安市 14.6% 全国 14.0%

〔課題のあった設問〕⇒ ② (1) 思考・表現・判断音に関する知識技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される結果を適切に説明できるかをみる問題です。全体的に低い正答率だった問題です。

【問題の概要】見出した問題について、文章で記述するインゲンマメの種子の発芽に必要な条件を調べた後、レタスの発芽について調べる。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、いつも発芽しなかったよ。



水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。



(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに新たな【問題】を見つけました。その【問題】を1つ書きましょう。

【正答】次の①②を表す言葉がどちらも記述されている。

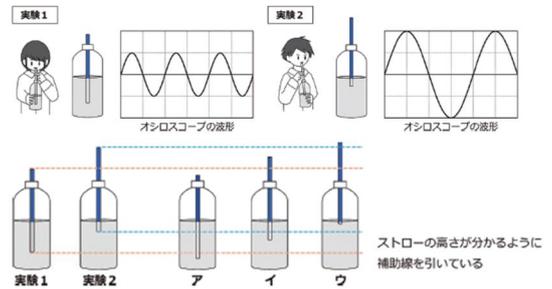
- ① <条件>から日光または肥料について1つ選択し記述する
- ② 疑問を示す趣旨で記述する

(例)レタスの種子が発芽するために日光は必要なのだろうか。

【誤りが多かった解答】

- ・①のみを記載している 31.4%
- ・①や②と関連していない誤答 26.1%

【問題の概要】第1分野(1)身近な物理現象(ア)光と音「ストロー内の空気が入る長さ」を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察した。「ストロー内の空気が入る長さが長くなるにつれて音はだんだん低くなる」という考察をより確かなものにするために、あと一つ実験を行う。次のア、イ、ウのどの実験を行い、オシロスコープの波形から何が分かれば良いか、振動数という言葉を使って書きなさい。



【正答】次の3つのパターンのいずれかに該当している。

- ①アを選択 「実験1、2の振動数<アの振動数」を満たしている。
- ②イを選択 「実験2の振動数<イの振動数<実験1の振動数」を満たしている。
- ③ウを選択 「ウの振動数<実験1、2の振動数」を満たしている。

【誤りが多かった解答】

- ・振動数の違いについて触れられていない。

【この問題の理解を促すための手立て】

- ・実験の図や人物の発言を関連付け、水・空気・適温以外の条件について調べる問題であることを捉えさせる。
- ・「問題」を書くことを問われていることを押さえ、「学習問題」「めあて」など普段の学習で使っている言葉で考えさせる。

【この問題の理解を促すための手立て】

- ・ストロー内の空気の長さと言の高低、振動数との関係を理解できているか確認する。
- ・条件を変えて実験することで、どのような結果が予想されるか見通しをもつ。

今後の授業改善にむけて

具体的な条件に着目し、問題を見出すことができるようにしましょう。

科学的な事実を基に、解決の道筋が明確になるよう、見通しをもたせましょう。

具体的な改善方法

- ・観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点を捉えることができるようにしましょう。
- ・児童生徒の気付きや疑問をもとにして、学習問題(めあて)を児童が設定できるように導きましょう。
- ・既習内容や生活の場面と関係付けながら、新たな問題を見出す活動を取り入れていきましょう。

具体的な改善方法

- ・ものづくりの活動を通して、自然の事物・現象に疑問をもたせましょう。
- ・考察の妥当性を高めるために、計画した観察・実験の結果から何が分かればよいのかを個人やグループで共有して観察・実験を行いましょ。
- ・「〇〇と比べて」のように比較する対象を明確にして文章として表現する言語活動を充実させましょう。